

# 筆算通書

自不定數題至測學題

四

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

|         |      |   |
|---------|------|---|
| 登錄<br>番 | 第    | 號 |
| 自然科學門   |      |   |
| 數部      |      |   |
| 筆算法     | 項    |   |
| 目       | 次    |   |
| 全       | 冊ノ内第 | 冊 |
| 分類<br>番 | 第    | 號 |

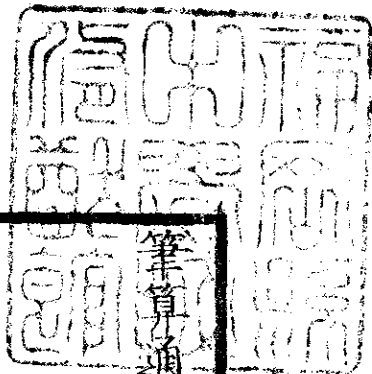
校學範師回縣回

|   |    |     |   |
|---|----|-----|---|
| 書 | 12 | 8   | 3 |
| 冊 | 19 |     |   |
| 號 | 4  |     |   |
|   | 4  | 冊ノ内 |   |

T1A1

30

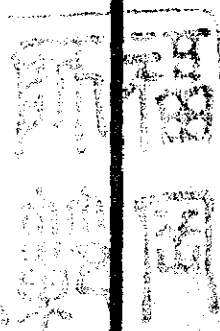
H 27



筆算通書卷之四

福田理軒閣

福田半孝正  
花井静編輯



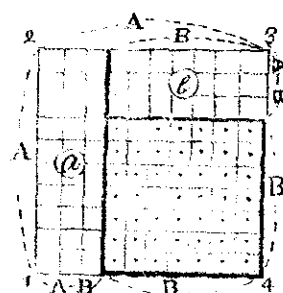
依代數式作圖究理顯數之法

代數式を以て圖を作り其術理を推究し其數を顯し式  
中の諸項と圖中の諸段と對應するを知るを要す

$$A^2 - B^2 = (A - B)(A + B)$$

此の如く代數式あり圖を作り其術理を推究するを  
を求む

算術通書卷之四



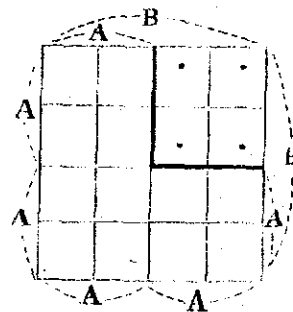
解曰く右式を視るはA自乗の内B自乗を減られたAハBより多きとを知る故に意に任せて其線を描く先づAを仮に十寸と縦線を定め1より2に至り又Aハ自乗あれば2より3に至り正矩ハAの横線を作り又1との縦線と23の横線は平行し14と43の縦横二線を作る時ハA正方の形を成も又Bを仮に七寸としA正方の内よ於て前の如くB正方形を作り之を脱去する時ハ上圖の如く縦横矩形の積よりてA十寸ハB差三寸と乗するもの(1)三十寸とB七寸ハAB差三寸と乗するもの(2)二十一寸と共に五十一寸よりて即ちAB和よりて十

七寸ハAB差三寸と乗するものよりて五十一寸あり故にA十寸の自乗百寸の内B七寸の自乗四十九寸を減するの餘り五十一寸は等し因てA自乗の内B自乗を減するも $A^2 - B^2$ ハABの和ハAB之と適等の式よりて $(A+B)(A-B)$ の本式は合するあり

$$3A^2 + 4 = B^2$$

此の如き代数式あり圖を作り其理を推究しABの数を顯はすことを求む

解曰く右の式を視るはAB共に自乗よりて4も亦自乗あり故に先づ4を以て正方形を作る時ハ其方辺ハ即ち二とあり之を縦横に引長よりてBの正方形を作り試



るは  $A$  を一寸とする時、其正方形五段より、  
 して本式に合はず  $A$  を二寸とする時、二  
 寸等辺の正方形三段より、 $B$  の正方形と  
 成る故に  $A$  は二寸より、 $B$  は四寸より

前例に準じ類題を設け初  
 學の爲に考究して圖を  
 作り其数を頭へにへ

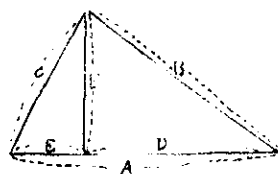
$$8A^2 + 4 = B^2$$

$$7A^2 + 9 = B^2$$

$$16A^2 + 9 = B^2$$

$$B^2 - C^2 = A(A - 2E)$$

此の如き代数式あり圖を作り其術理を推し應も、所  
 を求るを欲也



解と曰く右式を視るは  $ABC$  共は自築あり故  
 之と三辺より斜三角形を作り  $BC$  の隅より  
 $A$  の中垂線  $E$  を作り之を界より  $E$  の設け茲  
 より於て按ずるは勾股の理に準る時、此解二之  
 平方第五  $C^2$  は  $E^2$  と  $B^2$  と相併へる  $E^2 + B^2$  ものあり  
 題は在り  $C^2$  は  $E^2$  と  $B^2$  と相併へる  $E^2 + B^2$  ものあり

又  $B^2$  は  $D^2$  と  $E^2$  と相併へる  $D^2 + E^2$  ものあり故に  $B$  の内  $C$  を  
 減す時、 $E$  の自然に消去し  $B^2$  變じて  $D^2 + E^2$  と成る

$$B^2 = D^2 + E^2 \quad C^2 = E^2 + F^2$$

$$B^2 - C^2 = D^2 + E^2 - (E^2 + F^2)$$

$$B^2 - C^2 = D^2 - E^2$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad (A - 2E) \text{ は } E \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A - E \text{ あり} \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &\text{又} \quad A = D + E \\ &\text{又} \quad A - E \text{ は } D \text{ あり} \end{aligned}$$

$B^2 - C^2 = A(A - 2E)$   
 ち 即  
 $D^2 - E^2 = (D + E)(D - E)$   
 故  
 $(D - E) = \frac{D^2 - E^2}{D + E}$   
 是を視るよ  
 前第一條の  
 術より同  
 之を還元  
 $(D - E) = \frac{B^2 - C^2}{A}$   
 又之を還元す  
 時へ本式より等  
 仍て知る本式へ  
 今圖より此の斜

三角の方程として即ちB自來の内C自來を減、DEの  
 和Aを以て除け、DEの差を倍、仍てD  
 Eの和Aを加折半してDと、或は以てA  
 を減、折半してEと、  
 $D = \frac{A + (D - E)}{2}$   
 $E = \frac{A - (D - E)}{2}$

此條ハ和算と所謂三斜形大股小股の法あり余が考究も  
 る処を以て筆算式と準之を示す尚此諸法ハ點竈術の  
 專務なれハ茲と其一二を録、餘ハ代微積訣解に詳より

卜定數題一自約

a自來よりb自來ハ四十八个少、各奇零ある數を問

答 a十三 b十一 或 a八 b四 a七 b一

$a^2 - b^2 = 48$   
 變之  
 $(a + b)(a - b) = 48$   
 $a = \frac{(a + b) + (a - b)}{2}$   
 $b = \frac{(a + b) - (a - b)}{2}$   
 之を視るよ四十八の  
 數ハa bの和とa b  
 の差との相乘數あり  
 故に此四十八を自約

和差の兩數とあり之を試む又a b共よ折  
 半する數あり因て和差の兩數偶數ある時

奇零あり即ち兩項偶數  
 の・此三件を用ひて  
 $48 \times 1$   
 $24 \times 2$   
 $16 \times 3$   
 $12 \times 4$   
 $8 \times 6$   
 $(a + b) = 24$  a=13  
 $(a + b) = 12$  a=8  
 $(a + b) = 8$  a=7  
 $(a - b) = 2$  b=11  
 $(a - b) = 4$  b=4  
 $(a - b) = 6$  b=1



αと相乗してα三段、β二段を加ふれば五十四ありと云  
各奇零ある数幾何あるや

答

α八β三

或

α十β二

α十三β一

$$\alpha\beta + 3\alpha + 2\beta = 54$$

α補を数

$$\alpha\beta + 3\alpha + 2\beta + 6 = 60$$

1 換変を之

$$(\alpha+2)(\beta+3) = 60$$

仍て六十を自約せ

$$\begin{array}{l} 60 \times 1 \\ 30 \times 2 \\ 20 \times 3 \\ 15 \times 4 \\ 12 \times 5 \\ 10 \times 6 \end{array}$$

$$\begin{array}{llll} (\alpha+2)=15 & \alpha=13 & (\beta+3)=4 & \beta=1 \\ (\alpha+2)=12 & \alpha=10 & (\beta+3)=5 & \beta=2 \\ (\alpha+2)=10 & \alpha=8 & (\beta+3)=6 & \beta=3 \end{array}$$

解と曰く式を設け補  
数して之を交換しα  
と二の和とβと三の  
和を乗するものと六  
十と適等の式をば  
仍て六十を自約し此  
二項の数に分るもの  
と六十又二と三十又

三と二ト共々空或ハ負数をば故に之を用ひて四と十  
五又五と二又六と一を用ひ答数を求む

αβ相乗しα六段を加へβ三段を減すれば百十四ありと  
云各奇零ある数幾何あるや

答

α十一

β六

或

α十五

β二

$$\alpha\beta + 6\alpha - 3\beta = 114$$

α補を数

$$\alpha\beta + 6\alpha - 3\beta - 12 = 96$$

1 換変を之

$$(\alpha+3)(\beta-6) = 96$$

十六を自約し兩項の數

解と曰く上圖に依て九

$$1 \times 96$$

$$2 \times 48$$

$$3 \times 32$$

$$4 \times 24$$

$$6 \times 16$$

$$8 \times 12$$

$$(\alpha+3)=12 \quad \alpha=9$$

$$(\beta-6)=2 \quad \beta=8$$

$$(\alpha+3)=8 \quad \alpha=5$$

$$(\beta-6)=12 \quad \beta=18$$

六の五件ハ負或ハ反對をば仍て之を用

五

ひむ八と十二を以て二件の答数をひく

上下二巻の新聞日誌あり其冊数合て三十四冊より紙数四百四十八枚あり上下二巻の紙数合て二十六枚より紙数より下ハ冊数紙数共多しと云上下の冊数及紙数を問

答 上十六冊 十枚宛 下十八冊 十六枚宛 或 上十四冊 十二枚宛 下二十冊 十四枚宛

冊数差 =  $x$  紙数差 =  $y$

上冊数 =  $a$  下冊数 =  $b$

上紙数 =  $a$  下紙数 =  $b$

$$a = \frac{34-x}{2} \quad b = \frac{34+x}{2}$$

$$a = \frac{26-y}{2} \quad b = \frac{26+y}{2}$$

$$\left(\frac{34-x}{2}\right)a + \left(\frac{34+x}{2}\right)b = 448$$

$$34a + xa + 34b + xb = 448 \times 2$$

$$a + b = 26$$

$$34 \times 26 + (a-b)x = 896$$

$$a - b = \frac{26-y}{2} - \frac{26+y}{2} = -y$$

$$34 \times 26 + yx = 896$$

$$yx = 896 - 884 = 12$$

$$xy = 12 = 2 \times 6$$

$x$  或  $y = 2$   $y$  或  $x = 6$

$$a = \frac{34-2}{2} = 16 \quad b = \frac{34+2}{2} = 18$$

$$a = \frac{26-6}{2} = 10 \quad b = \frac{26+6}{2} = 16$$

又

$$a = \frac{34-6}{2} = 14 \quad b = \frac{34+6}{2} = 20$$

$$a = \frac{26-2}{2} = 12 \quad b = \frac{26+2}{2} = 14$$

解と曰く上の冊数を  $a$  と

下の冊数を  $b$  と其差

を  $x$  余一上の紙数を  $a$

と下の紙数を  $b$  と其

差を  $y$  余一式を  $a$   $b$

の和を二十六枚と変り又

$a$   $b$  の差を  $y$  と変り精式を  $a$   $b$   $x$   $y$  を求むる

と十二の適等あり仍て此十二を自約一二と六と一之を

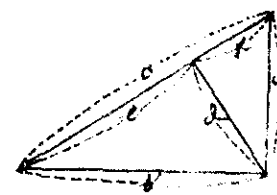
互に  $x$  と  $y$  を用ひ二件の答数を知る又十二を自約する

一と十二或ハ三と四も相同トと雖ども三十四冊及ハ

二十六枚皆偶数なるは一或ハ三を用ひる時ハ折半して



不尽数とほり故に之を用ひざるなり



正三角形あり勾股の和七十寸弦中勾の和七十寸あり問方よりほりて各を求るを欲せ

答

長弦三十二寸 短弦十八寸 弦五十寸

勾三十寸 股四十寸 中勾二十四寸

解曰く勾を $a$ 、命股を $b$ と、弦を $c$ と、其中垂線の中勾を $d$ と、長弦を $e$ と、短弦を $f$ と、故に $a$ 、 $b$ の和ハ七十寸あり $c$ 、 $d$ の和ハ七十四寸あり仍て $c$ 、 $d$ 相俟へ之を自乗して内 $a$ 、 $b$ の和自乗を減し之を以て七十四寸自乗の内七十寸の自乗を減する、と適等、方程式とほ之を視る、 $a$ 、 $b$ 自乗、股自乗と加るものハ弦自乗と同じ

く又弦の中勾を求るものハ勾、股を求るものと共、勾股の積ニ倍して相同、故に此△※等の正負を消去し、 $d^2$ と五百七十六との適等の精式をほり

勾= $a$  股= $b$  弦= $c$

中勾= $d$  長弦= $e$  短弦= $f$

$$a+b=70 \quad c+d=74$$

$$(c+d)^2 - (a+b)^2 = 74^2 - 70^2$$

$$c^2 + 2cd + d^2 - a^2 - 2ab - b^2 = 576$$

$$c^2 - a^2 = a^2 + b^2 \quad cd = ab$$

故に 又比  
同体 例に  
の正 依て  
負を  $fe = d^2 = 576$   
消去  $d^2 = 576$

$$a:b::d:e \quad fe = d^2 = 576$$

$$(a-b)(a+b) = d^2 = 576$$

$$(b-c)(b+c) = d^2 = 576$$

又比例式に依て、 $a$ 、 $b$ の適等とほり又中勾、昇、股、 $a$ と長弦、昇、 $e$ との相減するもの或ハ勾、昇、 $a$ と短弦、昇、

八と相減するものあり故に各を変へ解  
 一はあり中勾半は八股と長弦の差は股  
 と長弦の和と乗するもの一或は勾と  
 短弦の差は勾と短弦の和と乗するもの  
 とは仍ては五百七十六は四件の相乗数  
 あることを知り先之を自約し同数と取る  
 時ハ二十四は二十四の乗するものあり  
 故に中勾を二十四寸とす又五百七十  
 六を自約し十八と三十二をば少数十八  
 を短弦と多数三十二を長弦とせば  
 両数相併へ弦は五十寸をば又五百七

$$\begin{aligned}
 d^2 - 576 &= 24 \times 24 \therefore d = 24 \\
 fl - 576 &= 18 \times 32 \therefore f = 18 \quad l = 32 \quad c = f + l = 50 \\
 (a - f)(a + f) &= 576 = 12 \times 48 \therefore a = \frac{12 + 48}{2} = 30 \\
 (b - l)(b + l) &= 576 = 8 \times 72 \therefore b = \frac{8 + 72}{2} = 40
 \end{aligned}$$

十六を自約し十二と四十八をば少数十二を(a-f)と多数  
 四十八を(a+f)と相併へ折半し勾は三十寸とば又五百七  
 十六を自約し十八と三十二をば少数十八を(b-l)と多数七十  
 二を(b+l)と相併へ折半し股は四十寸と知る

不定数題二簡管

不定数題ハ必らば多元の虚命を帯するあり故に此法ハ  
 式中に於て其内の一元を求むるに必らば分母子の不尽  
 あり之を括て某と名け以て其他の元を求むるに亦分母  
 子の不尽あり時ハ又之を括て某と名け逐て此の如く  
 て分母子の不尽あり時ハ之より止り其数より遞推して奇  
 零るべき答数をばあり

二人の牧夫共六十二匹の羊を飼へり甲の牧夫云我羊ハ一次ニ三匹宛賣れを残る一匹の牧夫云我羊ハ一度ニ四匹宛賣入るゝと各飼ふ所の羊ハ幾何あるや

答 甲次數十八 乙次數二 餘ハ解末ニ記す

解ヨ曰ク 此不尽<sup>(2y)</sup>の一項をP

甲次數と 乙次數と 乙次數を

式を設け

と求め

甲次數=x 乙次數=y  
3x+4y=62 3x=62-4y  
x=(62-4y)/3=20-y+(2y/3)

と名け之を括る即ち  
リハ其理必ら<sup>二</sup>よ  
り多<sup>一</sup>仍て其位置を  
轉<sup>レ</sup>xを求るハ此  
正負を變<sup>ス</sup>へ<sup>一</sup>又P  
と還原<sup>ス</sup>リを求む

y-2=3P  
y=3P+2  
y-2/3=P

x=20-y-P=20-3P-2-P  
x=18-4P y=2+3P  
茲ニ於テP  
の數を定む  
る時ハx及  
ひyを知る  
之を試む  
ト下の如<sup>一</sup>  
P=0 { x=18 3x=54  
          y=2 4y=8  
P=1 { x=14 3x=42  
          y=5 4y=20  
P=2 { x=10 3x=30  
          y=8 4y=32  
P=3 { x=6 3x=18  
          y=11 4y=44  
P=4 { x=2 3x=6  
          y=14 4y=56

Pの數0より四に至り五件の答數とす

士と農と共に其人數を知らざれども會遊して士の各十三元の銀を遣ひ農ハ各銀九元を遣ひ士の人員費は処ハ農の人員費は処より一元多しと云各幾負あるや

答 士七員 農十員 餘ハ解末ニ挙ぐ

$$\begin{aligned} \text{士人} &= x & \text{農人} &= y & 2y &= 13x-1 \\ y &= \frac{13x-1}{2} = x + \frac{4x-1}{2} & \frac{4x-1}{2} &= p \\ 4x-1 &= 2p & 4x &= 2p+1 & x &= \frac{2p+1}{4} \\ x &= 2p + \frac{p+1}{4} & \frac{p+1}{4} &= q & x &= 2p+q \\ p+1 &= 4q & p &= 4q-1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} x &= 2(4q-1) + q = 9q-2 \\ y &= x+p = 9q-2 + 4q-1 = 13q-3 \end{aligned}$$

試を数て仍

$$q=1 \begin{cases} x=7 \\ y=10 \end{cases} \quad \begin{aligned} 13x &= 91 \\ 2y &= 20 \end{aligned}$$

$$q=2 \begin{cases} x=16 \\ y=23 \end{cases} \quad \begin{aligned} 13x &= 208 \\ 2y &= 207 \end{aligned}$$

$$q=3 \begin{cases} x=25 \\ y=36 \end{cases} \quad \begin{aligned} 13x &= 325 \\ 2y &= 324 \end{aligned}$$

解と曰く士の人数を $x$ と命し農の人数を $y$ と命し式を設けりと求むるは不尽の分母子をば之を $p$ と名け又之を還原式と $x$ を求むるは又不尽の分母子あり又之を $q$ と名け $x$ を括り又 $q$ を還原式と $p$ を求むるは

三

不尽の分母子を帯びて仍て此 $p$ を以て前より $y$ 及び $x$ を解き $x$ の $q$ 九段の内二を減るものをば $y$ の $q$ 十三段の内三を減するものをば故に $q$ 数を定め一と

或ハ二と三と之を求め際限なき答数を知る

米藏は米十四俵麥藏は麦八俵あり米藏ハ毎日米十七俵宛收加し麥藏ハ日々麦十三俵宛收加せし今兩藏は有所の俵数相等しと云各收る所の日数幾何なるや

答 米藏收五日 麥藏收七日

解と曰く米の收る日数を $x$ と命し麥の收る日数を $y$ と命し式を設けりと求むるは不尽の分母子あり此項を $p$ と名け以て $y$ を括り又 $p$ を還原式と $x$ を求むるは又不

尽の分母子あり之を $q$ と名け以て $x$ を括り又 $q$ を還原  
 式と $p$ を求るも不尽あり仍て此 $p$ を以て $x$ 及び $q$ を  
 解き $x$ の十三段の $q$ と五を加ふものを $y$ に十七段の  
 $q$ と七を加ふものを $z$ に此 $q$ を $0$ と定む時ハ $x$ 米日数  
 五日 $y$ 麥日数七日と $z$ 又 $q$ を $1$ と定む時ハ $x$ 米日数  
 十八日 $y$ 麥日数廿四日と $z$ 此の如く多件の答を知る

米日数= $x$  麥日数= $y$

$$13y+8=17x+14$$

$$13y=17x+14-8$$

$$y=\frac{17x+6}{13}=x+\frac{4x+6}{13}$$

$$\frac{4x+6}{13}=p \quad y=x+p$$

$$4x+6=13p \quad 4x=13p-6$$

$$x=\frac{13p-6}{4}=3p-1+\frac{p-2}{4}$$

$$\frac{p-2}{4}=q \quad x=3p-1+q$$

$$p-2=4q \quad p=4q+2$$

以各を解き

$$x=3p-1+q=12q+6-1+q=13q+5$$

$$y=x+p=13q+5+4q+2=17q+7$$

士卒を南北の數隊に分るあり南の一隊ハ士二十一人平八  
 十五人北の一隊ハ士九人平百二十二人あり士より平ハ九  
 百九十八人多しと云南北各幾隊あるや

答 南五隊 北六隊

解ニ曰く南の隊數を $x$ と命北の隊數を $y$ と命式を  
 設け點竄して $x$ を求るも不尽あり其分母此 $y$ の代數を  
 帶る數分母の半數より多し故に數を補ひ九分代數を帶る  
 の半數より多きとたひぬら補數して之を $z$ と變へ再  
 變ト其分母の半數より多きとたひぬら補數して之を $z$ と變へ再  
 ひ $x$ を求るも不尽あり此 $z$ の代數 $y$ を帶るの分母ハ  
 十五より多しと云南北各幾隊あるや  
 要は後之を $z$ と名け以て $x$ を括り又 $z$ を還原  
 式と $y$ を求るも不尽あり之を $q$ と名け以て $y$ を括

南隊数=x 北隊数=y  $21x+2y=85x+122y=998$

$64x=998-123y$   $x=15-y+\frac{38-4y}{64}$

$64x=998-128y+15y$   $x=15-2y+\frac{38+15y}{64}$   $\frac{38+15y}{64}=p$

$x=15-2y+p$   $15y=64p-38$   $y=4p-2+\frac{4p-8}{15}$   $\frac{4p-8}{15}=q$

$y=4p-2+q$   $4p=15q+8$   $p=4q+2-\frac{q}{4}$   $\frac{q}{4}=r$

$p=4q+2-r$   $q=4r$

き 解 を 各 以

$p=4q+2-r=16r+2-r=15r+2$

$y=4p-2+q=60r+8-2+4r=64r+6$

$x=15-2y+p=15-128r-12+15r+2=5-113r$

り又 q を還原  
式と 又数  
を補ひ p を求  
るは 不尽あり  
之を r と名け  
以て p を括り  
又 r を還原  
式と q を求  
るは 不尽あり  
四倍の r をは  
る之を以て各

五

を解くより六十四倍の y を六を加えるものありて x は  
五の内百十三倍の r を減るものあり仍て之を考るは百  
十三倍の r を五の内減るを視れは r は其数微少ありて  
必らず空を近し故に r をとて定めば x は五より南の  
隊数より六より北の隊数より又 r を一とせし時  
x の数反して負となり題意は合せざるあり

三種の茶共二十一斤あり此價銀二十圓四十一錢あり上  
一斤の代銀は一圓十錢中一斤の代銀は九十三錢下一斤の  
代銀は八十錢あり三種の茶各幾斤あるや

答 上茶九斤 中茶七斤 下茶五斤

解 曰く上の斤数を x と命し下の斤数を y と命し中の



俵と其俵数の差をリと命し $x$ と九斗五升を乗し端米一斗五升を減し俵入四斗五升を以て除き米の俵数とし又 $x$ より一石一斗二升を乗し内端麦六升を減し俵入三斗八升を以て除き麦の俵数とし内米の俵数を減しリと適等し式をば点竈し $x$ を求めるは不尽あり之を $p$ と名け以て $x$ を括り $p$ を還元し式とし又リを求めるは不尽あり之を $q$ と名け以てリを括り $q$ を還元し式とし $p$ を求めるは不尽あり之を $r$ と名け以て $p$ を括り $r$ を還元し式とし $q$ を求めるは不尽あり $r$ 三倍し二を加るものあり之を以て各を解き $x$ より百七十一段より百十一を加るものをばる仍て $r$ を定め空より百十一を以て貯金とす尚 $r$ を一

とすり時の貯金二百八十二圓あり或ハ二と三と仕意は多件の答数をばるべし

$$\text{貯金 } x \quad \text{米麦俵数差} = y \quad \frac{112x - 695x - 15}{38} \quad y$$

$$45 \times 112x - 45 \times 638 \times 95x + 38 \times 15 = 38 \times 45 \times y$$

$$1430x + 300 = 1710y \quad 143x - 171y = 30$$

$$x = \frac{171y - 30}{143} \quad y = \frac{28y - 30}{143} \quad \frac{28y - 30}{143} = p$$

$$x = y + p \quad 28y = 143p + 30 \quad y = 5p + 1 + \frac{3p + 2}{28}$$

$$\frac{3p + 2}{28} = q \quad y = 5p + 1 + q \quad 3p = 28q - 2$$

$$p = 9q + \frac{q - 2}{3} \quad \frac{q - 2}{3} = r \quad p = 9q + r$$

$$q = 3r + 2$$

き解を各以

$$p = 9q + r = 27r + 18 + r = 28r + 18$$

$$y = 5p + 1 + q = 140r + 90 + 1 + 3r + 2 = 143r + 93$$

$$x = y + p = 143r + 93 + 28r + 18 = 171r + 111$$



七 或人家鶏を貰あり公鶏牝鶏鶴共五十羽の價十五ギル  
 デン九ストイフルあり公鶏ハ一羽ハストイフル牝鶏ハ一  
 羽十ストイフル半鶴ハ一羽一ストイフル半ありと云各幾  
 羽宛あるや 但一ギルデレ多二十ストイフルあり

答 公鶏十八羽 牝鶏十三羽 鶴十九羽

解と曰く公鶏の数を $x$ と命し牝鶏の数を $y$ と命し五十  
 羽の内 $x$ 羽を減し鶴の数を $z$ と各一羽の價を乗し  
 十五ギルデンと二十を乗し九ストイフルを加ると適等  
 式を $z$ を消し $x$ を求めよ不尽あり之を $p$ と名け以て  
 $x$ を括り又 $p$ を還原し式と $y$ を求めよ不尽あり之を  
 $q$ と名け以て $y$ を括り又 $q$ を還原し式と $z$ を補ひ $p$

と求めよ不尽あり之を $r$ と名け以て $p$ を括り又 $r$ を還  
 原し式と $q$ を求めよ不尽あり三段の $r$ と $z$ 之を以て  
 各と解き $r$ ハ十三倍と $x$ ハ三十六の内十八倍の $r$

公鶏数 $=x$  牝鶏数 $=y$  鶴数 $=z=50-x-y$

$$8x + 10\frac{1}{2}y + 1\frac{1}{2}(50-x-y) = 15 \times 20 + 9$$

$$16x + 21y + 3 \times 50 - 3x - 3y = 618$$

$$13x + 18y + 150 = 618 \quad 13x = 468 - 18y$$

$$x = 36 - y \frac{5y}{13} \quad \frac{5y}{13} = p \quad x = 36 - y - p$$

$$5y = 13p \quad y = 2p + \frac{3p}{5} \quad \frac{3p}{5} = q \quad y = 2p + q$$

$$3p = 5q \quad p = 2q - \frac{q}{3} \quad \frac{q}{3} = r \quad p = 2q - r$$

$$q = 3r$$

き 解 と 各 以

$$p = 2q - r = 6r - r = 5r$$

$$y = 2p + q = 10r + 3r = 13r$$

$$x = 36 - y - p = 36 - 13r - 5r = 36 - 18r$$

算術 通書 卷之四 明大徳寺藏

を減るものをゆる仍て $r$ を定め一とす。時の $x$ 十八を  
 は公鶏の数としり十二をは牝鶏の数とし又五十羽の内  
 $x$ 及び $y$ を減り $z$ 十九をは鶴の数とし尚 $r$ を空とし或  
 の二とまる時の $x$ 或は $y$ 空おして題意に背くべし仍て  
 $r$ の一を以て定数とす

へ  
 甲乙の銃隊の中を試験するあり甲は四百放乙は三百四十  
 放おして其的中の九は共七百十一放なりと云各幾何分  
 の的の中あるや

答 甲的中九分七厘 乙的中九分五厘

解 曰く各的の中を百分之若干分とし甲の分子を $x$ と  
 命し乙の分子を $y$ と命し $x$ は四百放を乗し百分を以て

約し甲の中九とし三百四十放よりを乗し百分を以て約  
 し乙の中九とし七百十一放と適等し式を以て点竈  
 甲分子 $=x$  乙分子 $=y$   $\frac{340y}{100} + \frac{400x}{100} = 711$   
 $340y + 400x = 71100$   $17y = 3555 - 2x$   
 $y = \frac{3555 - 2x}{17} = 209 - x + \frac{2-3x}{17}$   $\frac{3x-2}{17} = p$   
 $y = 209 - x - p$   $3x = 17p + 2$   $x = 6p + 1 - \frac{p+1}{3}$   
 $\frac{p+1}{3} = q$   $x = 6p + 1 - q$   $p = 3q - 1$   
 き解を各以  
 $x = 6p + 1 - q = 18q - 6 + 1 - q = 17q - 5$   
 $y = 209 - x - p = 209 - 17q + 5 - 3q + 1 = 215 - 20q$   
 あり之を $p$ と名け  
 以て $y$ を括り又 $p$   
 を還原し式とし $x$   
 を求るは不尽あり  
 之を $q$ と名け以て  
 $x$ を括り又 $q$ を還  
 原し式とし $p$ を求  
 るは不尽あり三倍

の $q$ の内一を減るものとす。之を以て各を解く。又ハ  
 $q$ 十七倍の内五を減るものあり。又ハ二百十五の内 $q$   
 二十倍を減るものあり。茲に於て按ずるより。又ハ甲乙  
 の分子より其的中の歩数をば甲乙共相相似る数  
 ある。べく尚百分の若干分と云意あるハ甲乙共必らば  
 百より内の数を要とひ然るより。又ハ一とある時ハ又ハ十  
 二よりて。又ハ百九十五とあり。又ハ少くして。又ハ百分の  
 外に出て共。答をささげ。仍て $q$ の数を二或ハ三四五と  
 遞推して之を試る。又 $q$ の数を六とある時ハ又ハ九十七  
 をよりハ九十五より。其歩数は合は故。之を百分と約  
 各的中の歩本とす。

金券を數封に包むあり其数を知らば三枚宛に包むハ一枚  
 餘り五枚宛に包むハ過不足あり調度あり又七枚宛に包むハ二  
 枚餘ると云此金券幾何の数ありや

答

金券 百枚

金券数= $x$

$$\frac{x-1}{3} + \frac{x}{5} + \frac{x-2}{7} = y$$

包数和= $y$

$$35x - 35 + 21x + 15x - 30 = 105y$$

$$71x = 105y + 65 \quad x = y + \frac{34y+65}{71}$$

$$\frac{34y+65}{71} = p \quad x = y + p \quad 34y = 71p - 65$$

$$y = 2p - 2 + \frac{3p+3}{34} \quad \frac{3p+3}{34} = q$$

$$y = 2p - 2 + q \quad 3p = 34q - 3$$

$$p = 11q - 1 + \frac{q}{3} \quad \frac{q}{3} = r \quad p = 11q - 1 + r$$

$$q = 3r$$

各を解き

$$p = 11q - 1 + r = 33r - 1 + r = 34r - 1$$

$$y = 2p - 2 + q = 68r - 2 + 3r = 71r - 4$$

$$x = y + p = 71r - 4 + 34r - 1 = 105r - 5$$

解は曰く金券の数を $x$ と命じ総包数の和を $y$ と命じ式を設け点竈 $1x$ を求るも不尽あり之を $p$ と名け以て $x$ を括り又 $p$ を還元し式と $1$ 数を補ひ $y$ を求るも不尽あり之を $q$ と名け以て $y$ を括り又 $q$ を還元し式と $1p$ を求るも不尽あり之を $r$ と名け以て $p$ を括り又 $r$ を還元し $q$ を求るも不尽あり三段の $r$ を倍々以て各を解き $x$ は $100$ 。五倍の内五を減するものを倍 $y$ を一と定め答数百枚といふ $y$ を或は二と一三と一際限ある答数を知る空眼一千間の測場あり此所を一丈三尺五寸の竿を以て之を計るも七尺五寸盈り又一丈四尺七寸の竿を以て之を計るも五尺一寸盈ると云此定間数幾何あるや

+

空眼一千間の測場あり此所を一丈三尺五寸の竿を以て之を計るゝ七尺五寸盈り又一丈四尺七寸の竿を以て之を計るゝ五尺一寸盈ると云此定間數幾何あるや

答 定間數九百九十八間

解より始の竿数を $x$ と命じ、後の竿数を $y$ と命じ、式を  
設け、点竈より $x$ を求むるは、不尽あり、之を $p$ と名け、以て $x$ を

始竿数 =  $x$       后竿数 =  $y$

$$135x + 75 = 147y + 51 \quad 3) \underline{135x = 147y - 24}$$

$$3) \underline{135x = 1479 - 24}$$

$$45x = 49y - 8 \quad x = y + \frac{49-8}{45} \quad \frac{49-8}{45} p$$

$$x = y + \frac{4y-8}{45} = \frac{49}{45}y - \frac{8}{45}$$

$$\frac{49.8}{45} p$$

*P*

$$x = y + p \quad 4y = 45p + 8 \quad y = 11p + 2 + \frac{p}{4}$$

$$4y = 45p + 8 \quad y = 11p + 2 + \frac{p}{4}$$

$$y = 11P + 2 + \frac{P}{4}$$

$\frac{p}{4}$

$$\frac{p}{4} = 9 \quad y = 11p + 2 + 9 \quad p = 49$$

$$y = 11p + 2 + 9 \quad p = 49$$

*P* = 49

も解を各以

$$y = 11p + 2 + q = 44q + 2 + q = 45q + 2$$

$$x-y+p=45q+2+4q=49q+2$$

$$\frac{51 \times 135 + 75}{60} = 116$$

$$\frac{407 \times 147 + 51}{60} = 998$$

$$\frac{443 \times 133 + 75}{60} = 998$$

題数を試験も





を施すを要とすへ

米 三石七斗

代金 百九十五兩一銀十三匁八分

但し時金相場より米相場率後両替率目定  
右代金に預りしものは米札の返り金也

圖の如き古券あり虫蝕の爲に負数を損一分明あらん試み  
よ之を補ふことを欲す其虫蝕所の負数幾何あるや

答

米高二百五十三石七斗九升九合

代金百九十五兩一銀十三匁八分

解は曰く銀兩替六十目と以て端銀十三匁八分を除き永

$$\text{端金} = \frac{138}{60} = 0.23 \quad \text{端米} = 13 \times 0.23 = 2.99 \quad 372-35$$

$$\text{百以下金} = x \quad \text{三石以上米} = 100y \quad 13(100+x) - 100y + 35$$

$$13x = 100y + 35 - 1300 \quad x = \frac{100y - 1265}{13} = 8y - 97 - \frac{4y+4}{13}$$

$$\frac{4y+4}{13} = p \quad x = 8y - 97 - p \quad 4y = 13p - 4 \quad y = 3p - 1 + \frac{p}{4}$$

$$\frac{p}{4} = q \quad y = 3p - 1 + q \quad p = 4q$$

各以て解をき

$$y = 3p - 1 + q = 12q - 1 + q = 13q - 1$$

$$x = 8y - 97 - p = 104q - 8 - 97 - 4q = 100q - 105$$

錢二百三十文と成る  
之より一石三斗を乗  
二斗九升九合をば  
此九升九合の七斗以  
下虫蝕の負数なり  
二斗の七斗の内は籠  
れり仍て三石七斗の  
内此二斗を減し三石  
五斗より代金百以下  
の虫蝕負数をxと命  
し又三石以上虫蝕の

負數ハ五斗を一の位とし三石以上の級ハ百の位より  
 十石は相當せられ上虫蝕負數をより十石を衆するもの  
 は命之る三石五斗を加へ又百兩は $\alpha$ を加へ一石三斗  
 を衆すると適等式を以て點竄數を補ひ $\alpha$ を求るよ不  
 尽あり之を $P$ と名け以て $\alpha$ を括り又 $P$ を還原式とし  
 りを求るよ不尽あり之を $q$ と名け以て $q$ を括り又 $q$ を  
 還原式とし $P$ を求るよ不尽あり $q$ 四倍とし以て各を  
 解き $q$ ハ $q$ 十三倍の内一を減するものにして $\alpha$ ハ $q$ 百  
 倍の内百〇五を減するものあり $q$ と一とある時ハ $\alpha$ の  
 數反減して負と成る仍て書面の旨は合はば $q$ を定め二  
 とす。時ハ $\alpha$ 九十五を以て即ち百以下の虫蝕より百と

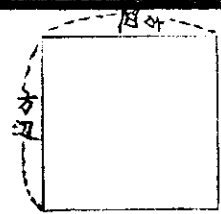
加へ其代金百九十五兩と銀十三匁八分と知る又 $q$ ハ二  
 十五を以て之は百を衆し二千五百と成る即ち斗を一の  
 位とし之を遞推すると此ハ二百五十石あり之は三石五  
 斗と先より求めし二斗九升九合を加へ二百五十三石七  
 斗九升九合と知るあり

求積一面積

測量學 測量とハ諸算法の總稱ありての專要ハ點線面体  
 測量とハ諸算法の總稱ありての專要ハ點線面体  
 四則の理を明辨せられを必らず此門に入ると能はば夫  
 點とハ唯指示す。處の一點より。此の如く最も初義  
 るて未だ其形ちを以ざるが如く測量を施すと能はば  
 然れども其數を累次せれば數點と成り其多少を測量す



べー又點を引長まれを線と成り——此の如く漸く形ちを  
 為し其長短を測量すべー又此線を縦或へ横に擴充され  
 ば方形とあり——□此の如く全く平面よして即ち面積あり  
 其廣狹を測量もべー又面積は線を乘まれべ立方形を成  
 べ——此の如く厚高を生し体積と成る其実体の厚薄或  
 は輕重をも測量もべー即ち前説の如く点へ未だ形ちを  
 与さば其数を与さるる線へ漸く形ちを成し整数を与  
 するものあり面へ其形ち平面を成し相乘数と成れり体  
 へ其形ち實體を成し再乘の數と成る能く此四則の旨を  
 分明すべー尚初學の比例式幾何法と雖も此理は關係  
 せざるはる——又点線へ面体は比まれば其理自ら輕易なる



面積=x 方辺=a

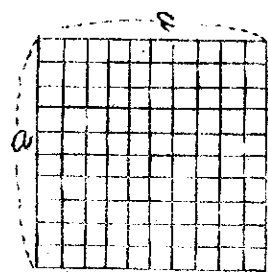
$$x = a^2 = 10^2 = 100$$

色ハ此書全卷の術中より於て自然より了解もべー今面積の  
 一隅を舉て其槩畧を説示は是測學入門の專要なれを能  
 く其法を熟習すべー尚体積の如きは後卷に詳するべ

正方形あり其面積を求む方辺十寸ある時其  
 面積幾何を求めや

答 面積百。〇寸

解と曰く方辺十寸ハ其一边ハ縦  
 線の十個あり又一边ハ横線の十

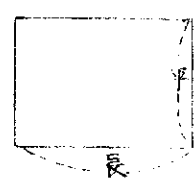


個あり縦線の十個は横線の十個を乘まれば个  
 々皆方形を為し百個を与る即ち横線は縦線  
 の一寸ハ一寸を乘する方形十個あり之を縦線

の如く十級累ぬをば一寸の自乗數百个より其面積百寸と成り即ち一寸の正方百个あり

又云前条の数を倍徒して方辺を百寸とせし時、縦横共に其十分の一の一個の方辺に十寸ありされを其十寸より十寸を乗する、正方百个あり其一個は前条の正方百寸より同一けしを之を百个累ぬの時、一万寸と成る即ち前圖に準る時の十寸より十寸を乗する、面積百寸のもの下の横行より十個ありて十寸あり之を縦の十級累ぬの時、一萬寸と成る是則ち前条の數方邊に十倍よりなるものありて其面積は百倍とるなり縦横相乘さればなり

左圖の如き矩形あり其面積を求む平四寸より長五寸ある



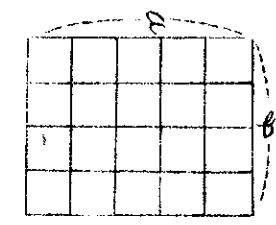
面積=長×平 長=a 平=b

$a \times b = 5 \times 4 = 20$

り面積幾何を尋るや

答 面積二十寸

解と曰く下圖の如く平四寸の縦線よりて四個あり長五寸の横線より

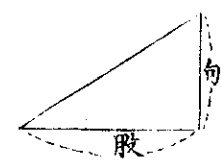


て五个あり縦線の四個は横線の五个を乗されは其个々毎は面を成り一寸と一寸を乗する、正下方の横線は五个あり之を縦線個の四級累ぬとせば既は二十個の面積よりて即ち二十寸あり

又此个々の一寸より一寸を乗する、正方を以て前条の十寸より十寸を乗する、百寸の正方とする、時に此矩形の面積二千寸と成り即ち長は五十寸よりて平は四十寸と成る也

長平の線ハ十倍を増し面積ハ百倍を増あり是則ち線ハ  
 整数よりて面積ハ相乗数あればなり能く考ふべし

三

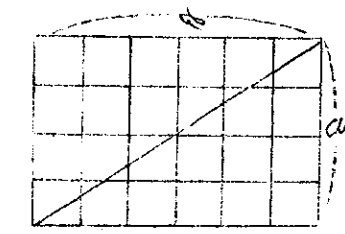


正三角あり勾四寸より股六寸あり其  
 面積を求る幾何あるや

答 面積十二寸

解は曰く勾 $a$ の縦線四寸より股  
 $b$ の横線六寸を乗せれを一寸

より一寸を乗する个々の正二十四よりて  
 右圖の如く矩形の積と成り勾股の積二倍  
 を得る仍て之を折半して此面積と成



面積  $x$  勾  $= a$   
 股  $= b$   $x = \frac{ab}{2}$   
 $x = \frac{4 \times 6}{2} = 12$

斜三角あり底辺あり斜ハ八ヒート中垂線あり五ヒートよりて

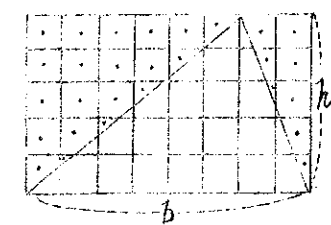
四

此面積幾何をひるや

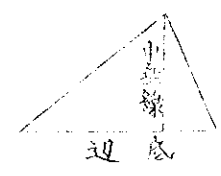
答 面積二十ヒート

解は曰く底辺 $b$ 八ヒートより中  
 垂線 $h$ 五ヒートを乗せれを  
 ヒートより一ヒートを乗する个

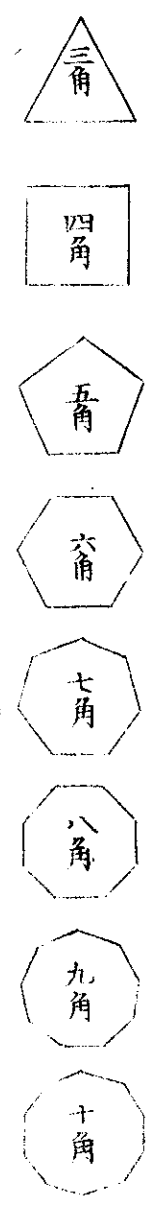
々の正四十よりて矩形の面積と成り斜  
 三角の面積二倍をひる仍て折半して得る



面積  $= x$   
 底辺  $= b$  中垂線  $= h$   
 $x = \frac{bh}{2} = \frac{8 \times 5}{2} = 20$



五



圖の如く等辺諸角形或ハ圓形あり等辺或ハ全  
 徑十寸ある時ハ各の面積幾何をひるや

解と曰く辺或は徑十寸を自乗せられ前条正方題の如く一寸自乗の正方百个と成り辺十寸正方の面積百寸を以

答

|       |             |
|-------|-------------|
| 等辺三角形 | 四十三寸三。一二七   |
| 同 四角  | 百。〇。寸       |
| 同 五角  | 百七十二寸。四七七四  |
| 同 六角  | 二百五十九寸八。七六二 |
| 同 七角  | 三百六十三寸三九一二四 |
| 同 八角  | 四百八十二寸八四二七一 |
| 同 九角  | 六百一十八寸一八二四二 |
| 同 十角  | 七百六十九寸四二。八八 |
| 圓形    | 七十八寸五三九八一   |

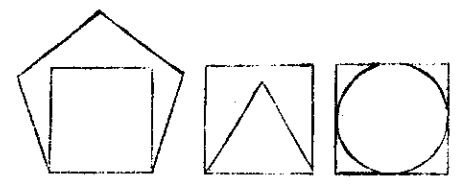
面積定率

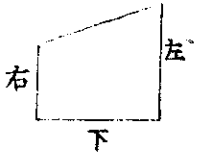
面積 =  $X$     辺或徑 =  $a$   
 面積率 =  $\pi$      $X = a^2 \pi = 100 \pi$

|    |             |
|----|-------------|
| 三角 | = 0,4880127 |
| 四角 | = 1,0000000 |
| 五角 | = 1,7204774 |
| 六角 | = 2,5980762 |
| 七角 | = 3,6339124 |
| 八角 | = 4,8284271 |
| 九角 | = 6,1818242 |
| 十角 | = 7,6942088 |
| 圓形 | = 0,7853981 |

る之も其定法の面積率を乗せれば圖の如く圓形の其四隅を脱去し七十八寸五餘とあり三角形の正方三辺の所を脱去し四十寸三餘と成り四角形の正方と同し五角形の其四辺を増加し百七十二寸余を以

凡そ定率の幾何代數に依り或は微分積分準て求る處あり茲るに唯定率の用法を示す





面積 =  $X$  下辺 =  $b$

左辺 =  $a$  右辺 =  $c$

$$X = \frac{(a+b)b}{2} = \frac{(23+27)45}{2}$$

答

面積千三百五十尺

解曰 左  $a$  右  $b$  を加へ

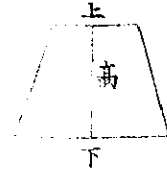
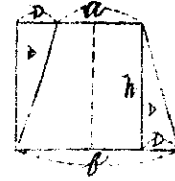
六十尺の縦線と成るより下  $b$  四十五尺を乗じれば一尺自乗の正万二千七百と成り矩形の積より半梯形の面積二倍より仍て之を折半して求る所の面積とす

梯形あり上辺ハインチ下辺十八インチ

高十三インチあり此面積幾何あるや

答

面積百六十九インチ



面積 =  $X$  高 =  $h$

上辺 =  $a$  下辺 =  $b$

$$X = \frac{(a+b)h}{2} = \frac{8+18}{2} \times 13$$

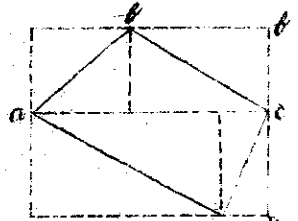
解曰 上  $a$  下  $b$  を加へ折半すれば右圖の如く  $a$  半  $b$  半の和十三インチと成る之を高  $h$  十三インチを乗じれば一インチ自乗の正万六十九ありて矩形の積をばる左の欠を補ひ即ち梯形の面積とす

不等辺四角あり  $AC$  辺二十八間  $BC$  の垂線九間  $D$  の垂線十六間あり此面積幾何をばるや

答 面積三百五十歩

解曰 左  $a$  右  $b$  を加へ

六十尺の縦線と成るより下  $b$  四十五尺を乗じれば一尺自乗の正万二千七百と成り矩形の積より半梯形の面積二倍より仍て之を折半して求る所の面積とす



面積 =  $X$

$$X = \frac{AC \times BG}{2} + \frac{AC \times DH}{2}$$

$$X = \frac{AC(BG+DH)}{2}$$

$$X = \frac{(16+9)28}{2} = 350$$

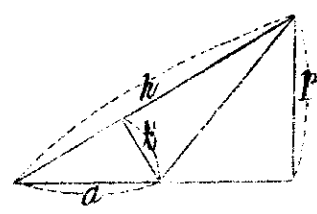
面積三百五十歩

解曰 左  $a$  右  $b$  を加へ

六十尺の縦線と成るより下  $b$  四十五尺を乗じれば一尺自乗の正万二千七百と成り矩形の積より半梯形の面積二倍より仍て之を折半して求る所の面積とす

答 白面積二十寸

$$x - \frac{hb\Delta}{2}$$
$$P:h::b:a$$

$$Pa = hb$$


るに同し仍て△を變へ

自來の正方四十を倍

答 白面積十五  
一一一

$$x = \frac{ap}{2} = \frac{6 \times 5}{2}$$

増る又  $a$  又  $D$  を乗する時ハ上の白積二倍を増る相俟へ  
 て求める所の  $x$  二倍とある仍て之を括る時ハ  $a$  又  $p$  を乗  
 する由のあり故に折半して白面積とす

楕圓あり長徑十寸短徑七寸あり面積幾何あるや

答 面積五十四寸九八弱

解 曰く長徑 $a$ と短徑 $b$ を乗

をれば一寸自乗の正方七十

して矩形の積とある之も圓積

卒を乗する時ハ矩形の四隅を

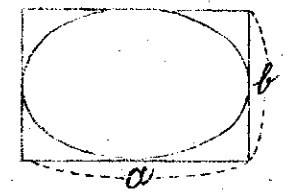
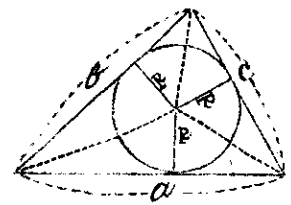
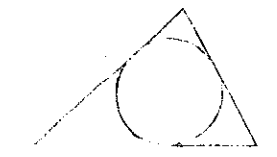
脱去し楕圓の面積をひくあり

斜三角の内ハ圓を容るあり其容る所

の圓徑八寸より三辺 $a$  $b$  $c$ の和四

十二寸あり此面積幾何あるや

答 面積八十四寸



面積 $=\pi$  圓積卒 $=n$

長徑 $=a$  短徑 $=b$

$\pi = abn = 10 \times 7 \times 0.7854$

解 曰く圓徑を折半し $R$ とし $a$ と $R$ を乗

をれば下辺の矩形の積あり小斜三角下の面積二倍あり

余ハ之 $b$ と $R$ を乗をれば左辺の矩形の積

あり又 $c$ と $R$ を乗をれば右辺の矩形の積

あり此下左右の矩形の積三件相併ふ時

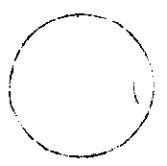
ハ $a$  $b$  $c$ 三辺の和ハ半徑 $R$ を乗し積より斜三角

の積二倍あり故ハ $a$  $b$  $c$ 三辺の和ハ圓徑を乗し四除

て其面積とハ又矩形の積の理ハ前条斜三角の条ハ同

圓形あり半徑 $R$ 五寸此周圍 $C$ 三十一寸四一六

答 面積七十八寸五四



面積 $\pi$  圓徑 $=2R$

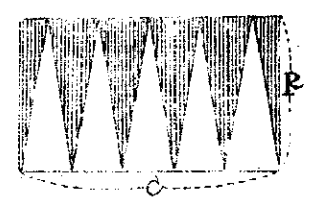
$\pi = \frac{Ra}{2} + \frac{Rb}{2} + \frac{Rc}{2}$

$\pi = \frac{R(a+b+c)}{2} = \frac{5(42)}{2}$

$$x = \frac{C \cdot R}{2}$$

面積 =  $x$

解曰 曰く周圍  $C$  は半徑  $R$  を乘まれば 矩  
 形の積と成る之を假し下圖の如く五截  
 其形狀を視るは白積と黒積と同等五  
 段ありて白積は求る處の面積あり 乃て  
 此周圍を無究に截分する時ハ無究の白  
 積と黒積ありて求る積ハ密合するべし 故に此五截を無究  
 截に代へる時の周圍  $C$  は半徑  $R$  を乘し白積二倍を以て  
 之を折半して圓面積とす尚此理を因る時ハ圓徑ハ周圍  
 を乘まれば圓面積四倍あり亦周圍ハ圓徑ハ圓周率を乘  
 して得るものあり圓徑自乘ハ圓周率を乘して得るもの亦同  
 圓面積四倍あり 乃て知る圓積率ハ圓周率を四約して

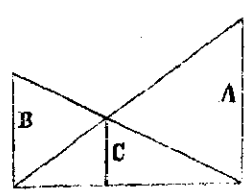


るものあり 尚其密數を示す

圓周率 三 一 四 一 五 九 二 六 五 三 五 八 九 七 九 三 二 三 八 四 六  
 圓積率 〇 七 八 五 三 九 八 一 六 三 三 九 七 四 四 八 三 〇 九 六 一

測學題一

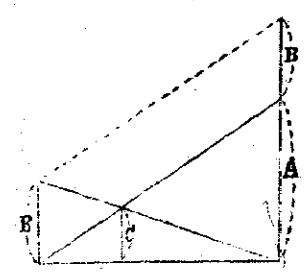
圖の如く兩正三角形交錯するあり  $A$  線六ヒ一  
 ト  $B$  線三ヒ一トあり 中線の  $C$  幾何ありや



答  $C$  線二ヒ一ト

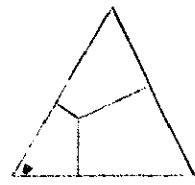
$$C = \frac{AB}{A+B} = \frac{6 \times 3}{6+3}$$

解曰 曰く  $A$  線を引長し  $b$  線  
 を加へ其上より原在の  $b$  線  
 上へ斜線と平行して一線を  
 設け下の如く其形を視





るは大小相似なる兩半梯形を以て大半梯の左辺は $a$ 、 $b$ の和あり右辺は $b$ あり小半梯の左辺は $a$ より右辺は $c$ あり仍て比例式を設け $C$ を以て

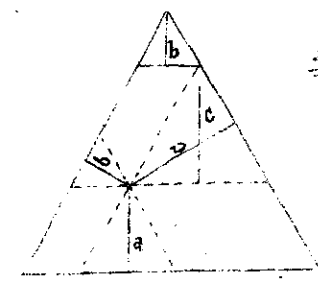


圖の如き等辺三角形あり其内を於て任意の一点を設け此点より其三辺に最も近き三垂線を画くあり等辺若干ありて三垂線の和を問

答 三垂線の和ハ中垂線ニ等シ

解と曰く設点より三辺に平行して其内

に三線を作る時ハ三個の小三角形を作る其三個の中垂線ハ三辺の垂線ニ同トくして三垂線の和ハ全三角形の中垂線



は等し仍て答言の如し又方程式の如きは代微積尚等辺

を以て中垂線及び其定本を求る術路を示す

中垂線= $x$

等辺= $a$   $b = \frac{a}{2}$

$$x^2 + b^2 = a^2$$

$$x^2 = a^2 - b^2$$

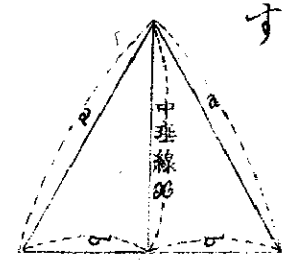
$$x^2 = a^2 - \frac{a^2}{4}$$

$$4x^2 = 4a^2 - a^2$$

$$4x^2 = 3a^2$$

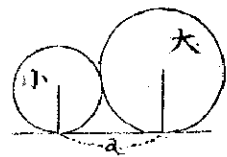
$$2x = a\sqrt{3}$$

$$x = a\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$



三角形を兩截する時ハ二勾股形と成り其中垂線を股とし $x$ を命し等辺半を勾とし $b$ を命し等辺 $a$ を弦とし勾股の理に依て適等を以て点竄して $x$ を求るは中垂線ハ三個の平方根を折半し其便は從ひ之を用ゆる事の多し等辺を乗するものあり

左圖の如く一線を界し兩線と以て不等の二圓を挟むあり



を求るは上辺下辺相乗の平方根と知る  
線と大小の二圓相切するあり大圓徑若干小  
圓徑若干を題し線と切点の距離  $a$  を求む

答 左の如し

圓徑 =  $x$  上 =  $a$

$r = b$   $a' = \frac{a}{2}$

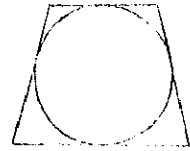
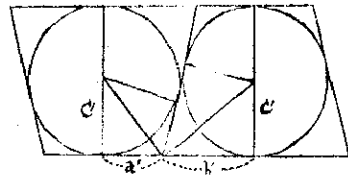
$b' = \frac{b}{2}$   $c' = \frac{x}{2}$

$c':b::a':c'$

$c^2 = ba'$

$x = \sqrt{ab}$

解と曰く下辺を  
引長し上辺を併  
へ同形を轉倒し画く時ハ相



梯形の内に圓を容るあり上辺若干  
下辺若干を題して圓徑を求む

答 左の如し

長し横線の下より於て同一大小二圓を同形に画く時ハ四  
圓の心十字は直角を成し相似なる兩勾股形と成り比例  
式を以て点竄して  $n$  相乗四倍と大圓徑を除き小圓徑を  
以て界斜ハ圖に依て  $n$  の和と等きことを知る

大 =  $a$  小 =  $b$

$c = \frac{a}{2}$   $d = \frac{b}{2}$

$n:c::d:m$

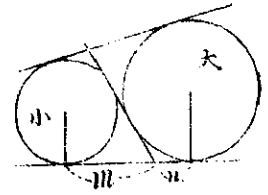
$cd = nm$

$\frac{ab}{4} = nm$

$ab = 4nm$

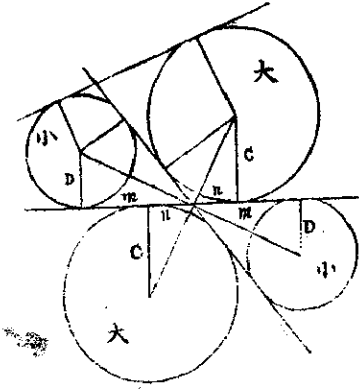
$b = \frac{4nm}{a}$

解と曰く界線を下へ引



大圓徑若干  $n$  若干  $m$  若干  
を題し小圓徑及び界斜を  
求るあり如何なるや

答 左の如し

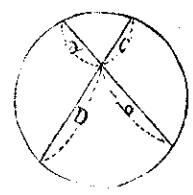
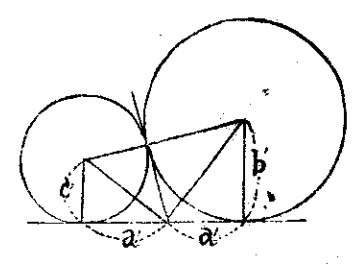


六

大=b 小=c  
 $a' = \frac{a}{2}$   $b' = \frac{b}{2}$   $c' = \frac{c}{2}$

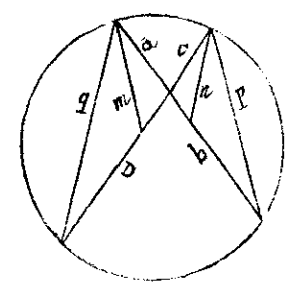
$a':b':c':a$   
 $a^2=bc$   $a=\sqrt{bc}$

解と曰く切点の距離 $a$ と下圖の如く二分し二圓の交点に至り界線を設くる時へ前条の如く相似し、兩勾股形を以



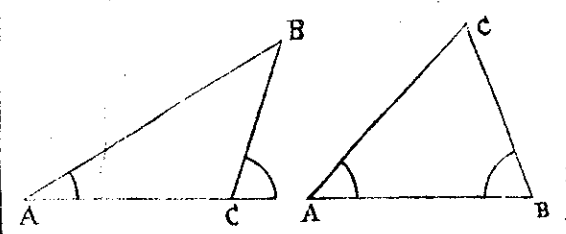
答 左の如し

解と曰く兩斜圓周の切点より切点迄を左  
 右PQの二線を設くる時へ兩辺と斜三角



七

$c:b::a:d$

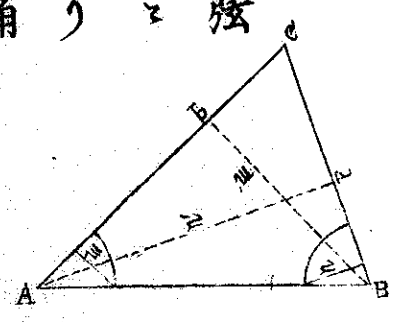


形を以て又左右PQの線と平行して各其内よりm  
 の線を作る時へ左右の兩斜三角形相似し、同矩あ  
 ると明し、より仍て比例し、知るD線のabの二線  
 相乘しC線を以て除くものあり

斜三角形ありA角若干B角若干AC辺若干  
 を題してBC辺若干を求む

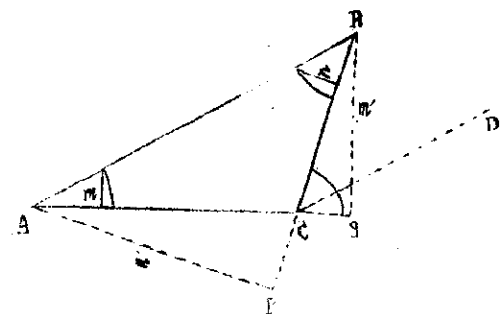
答 左の如し

B鋭角の解と曰くA角の正弦  
 をmと命しB角の正弦をnと  
 命し此nに準しA角の心より  
 Pに至る垂線nを作り又A角



$$BC = \frac{AC \cdot A}{\cdot B}$$

の正弦  $m$  に準し  $B$  角の心より  $Q$   
 に至る垂線  $MQ$  を作る時  $\triangle CAP$   
 の勾股と  $\triangle CBQ$  の勾股と其形ち  
 相似より仍て比例式を設け三本

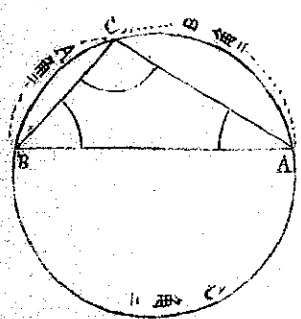


四幸の  $m$   $n$  を変へ  $m$   $l$  とし  $B$   $C$  辺を  
 求る時  $\wedge$   $B$  角の正弦を以て  $A$  角の正  
 弦と約し  $A$   $C$  辺を求むるものあり  
 $C$  餘角の解と曰く  $C$  角の心より  $A$   $B$   
 へ平行して  $C$   $D$  の線を作ると其  $D$   $C$   
 $B$  の角へ  $A$   $B$   $C$  の角と等しく  $C$  余  
 角の内  $A$  角を減るものとして即ち  $C$   $A$

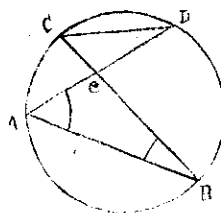
是より  $B$  角と  $\perp$  其正弦を  $n$  と命  $\perp$  又  $A$  角の正弦を  $m$  と  
 命  $\perp$  此  $m$  と準  $\perp B$  角の心より  $q$  と至り垂線  $m'$  を作り  $A$   
 $C$  辺を引長  $\perp q$  と至り又  $B$  の正弦  $n$  と準  $\perp A$  角の心よ  
 り  $p$  と至る垂線  $n'$  を作り  $BC$  辺を引長  $\perp p$  と至る時ハ  
 $CAP$  の勾股と  $CBq$  の勾股と其形も相似  $\perp$  仍て比  
 例式を設け  $BC$  線を求る時ハ皆前段と同  $\perp$  尚側量新式  
と合考要  
 左圖の如き弧度あり  $\alpha$  角若干  $\perp$   $\perp$   $b$  の弧度如何あるや



答  $\alpha$  倍角度と同じ

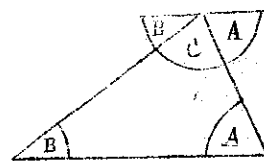


了り如何とあるは斜三角内のABCの三角  
相併る時ハ百八十度あり此三角度と對する處  
の全圓ハ三百六十度あり仍てA角と對する處  
BCの弧ハAの倍角ありB角の對する處CA  
の弧ハBの倍角ありC角の對する處ABの弧ハCの倍  
角あり之を以て能其理を分明とせば之を衆圈角と号  
く度學の助術とあると多し



圖の如く圓内ハ四線を以て兩斜三角を作るあ  
りA角若干B角若干AB辺若干CD辺若干を  
題してAe辺及びBe辺Ce辺De辺を求む

答 左の如し



$$\angle A = \angle C$$

$$\angle B = \angle D$$

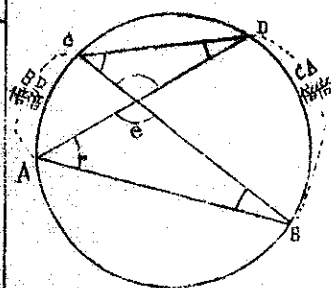
$$e = 360 - \angle A - \angle B$$

$$Ae = \frac{AB \cdot B}{e}$$

$$Be = \frac{AB \cdot A}{e}$$

$$Ce = \frac{CD \cdot D}{e}$$

$$De = \frac{CD \cdot A}{e}$$

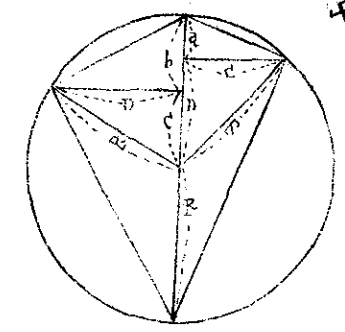


解と曰く前条衆圈角の理を以て考るとA角と對するB  
Dの弧度ハA角の倍角として亦C角の倍角あり又B角  
と對するACの弧度ハB角の倍角として亦D角の倍角  
あり故に之を反する時ハC角ハA角と同じくD角ハB  
角と等し故に兩斜三角形共に同矩を以て又半周百八十  
度の内A角及びB角を減る時ハe角を以て仍てABC  
三角の正弦を求め以て前七条の術に依て各を以て

兩正三角形あり其弦相等しく又左の中垂線と右の短弦との和ハ右の中垂線と左の短弦との和と相等し左中垂線三寸右中垂線四寸ある時ハ其等弦幾何あるや

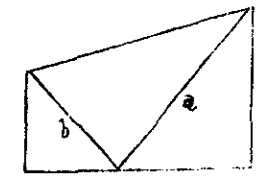
答 等弦一十寸

解と曰く勾股の兩形其弦相等しき時ハ圓内ニ其徑を弦として二勾股形を容る時ハ其弦必らず相等し仍て下圖を作り



之を視るに左中垂線右短弦の和及び右中垂線左短弦の和ハ共ニ半徑なり其半徑ハ左の中垂線Cを勾として右の中半徑 =  $r$   $2r = 2\sqrt{c^2 + d^2}$   
 左短弦 =  $a$  左中垂線 =  $c$   
 右短弦 =  $b$  右中垂線 =  $d$   
 $r^2 = c^2 + d^2$   
 $r = \sqrt{c^2 + d^2}$   
 $2r = 2\sqrt{c^2 + d^2}$

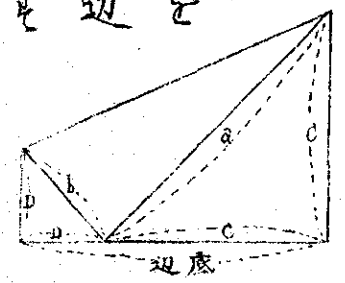
中垂線Dを股とする處の弦あり故に勾股の理に依て式を設け  $2r$  を求める時ハ左中垂線自乗と右中垂線自乗を加へ其開平方根を倍して等弦とす



半梯形の内に  $a$   $b$  の二線を設くるあり  $a$  線若干  $b$  線若干此半梯の積最も多き時ハ其底辺幾何を以てや

答 左の如し

解と曰く此積最も多きを望む故に先  $a$  線を以て其多少を試ると  $a$  線直立する時ハ右辺と相親し右方の積空となり  $b$  線も又直立する時ハ之と同じ又  $a$  線低く伏て底辺と親む時ハ又右方



底辺=x

$$x = \frac{a}{\sqrt{2}} + \frac{b}{\sqrt{2}}$$

$$x = \frac{a+b}{\sqrt{2}}$$

$$\frac{x}{2} = 0,5$$

$$x = (a+b)/0,5$$

又 故

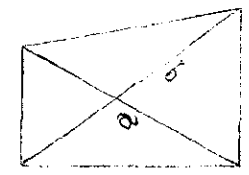
の積空と成るb線も亦此の如く故に其積の多極の此仰俯の中間に在り其中間あるものハa bの両線共に正

の對角線とある。仍てa bの両線と共に對角線と一其正  
方辺を求め 卷開平方第六題に詳あり相併へ其開方根  
を變へxと成り即ちa b線相併へ五分の平方根を乘る也

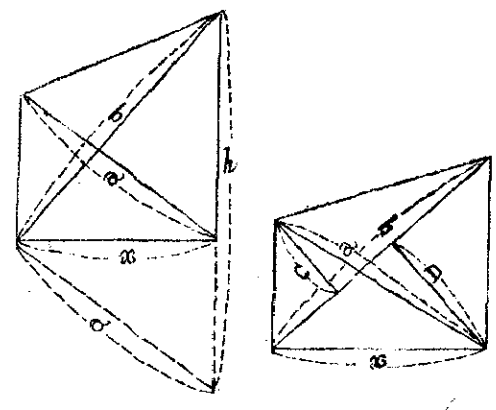
半標の内とa bの二線相交りありa線若干  
b線若干其積最も多きを要し其底辺幾何ある

答 左の如く

解と曰く前の求積解中にて依てb線を用ひ其積



を求る法を考ふるは下圖の如くb線  
とCを乘るとDを乘ると相併  
へ折半して此積と以て按る  
るCDの線短少ある時ハ其積も亦  
少くCDの線空ある時ハ其積も亦  
空あり仍てCDの線長大ある時ハ  
其積必らひ多し又CD線最も長大



底辺=x 勾=a

股=b 弦=h

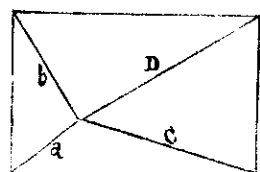
$$b^2 + a^2 = h^2$$

$$h = \sqrt{(a^2 + b^2)}$$

$$h:b::a:x$$

$$x = \frac{ab}{h}$$

ある時ハa線と相親とCD  
線の和a線と相等しく又b  
線と直角と成り勾股形を生  
じ又其多極の積ハa線とb



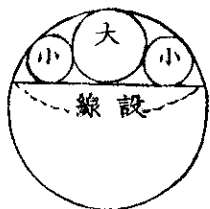
線を乗し折半しつゝものあり故と勾股の理に依て弦 $h$ を求め以て比例して $AC$ をひく即ち $a$ 線自乗と $b$ 線自乗を加へ平方と之を異き以て $a$ 線自乗と約し底辺とひ

矩形あり其内と一点を設け四隅と線を引長す

$a$ 線若干 $b$ 線若干 $c$ 線若干を題し $D$ 線を求む

答 左の如し

解と曰く $D$ 線を $AC$ と命し設点より左辺 $I$ に至る垂線を $e$ と右辺 $K$ に至る垂線を $h$ と上辺 $G$ に至る垂線を $m$ と下辺 $F$ に至る垂線を $n$ と勾股の理に依て各を求め式を作り点竈して $AC$ を求む時の $a$ 線自乗と $b$ 線自乗を加へ其内 $c$ 線自乗を減し平方と関き $D$ 線



$$D = AC \quad n^2 = a^2 - e^2$$

$$m^2 = b^2 - e^2$$

$$D^2 - m^2 = h^2$$

$$c^2 - n^2 = h^2$$

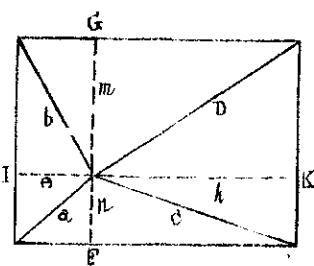
$$c^2 - n^2 = D^2 - m^2$$

$$c^2 - a^2 - e^2 = D^2 - b^2 - e^2$$

$$c^2 - a^2 = D^2 - b^2$$

$$D^2 = c^2 - a^2 + b^2$$

$$D = \sqrt{(c^2 + b^2 - a^2)}$$



圓の内は線を設け大小の圓を容るあり外圍徑九寸小圓徑一寸ある時の設線幾何あるや

答 設線六寸

解と曰く設線を $AC$ と命し外徑を $a$ と大徑を $b$ と小徑を $c$ と勾股の理に依て比例して式をひ又左圖に依て $e$ を求め五條の解と詳らるなり又勾股の理に



依て式を設け点竄して一式を以て\*を變へてxを求る  
外徑小徑相乘平方開き之を倍して設線を以て

外徑=a 大徑=b 小徑=c 設線=x

$$b : \frac{x}{2} :: \frac{x}{2} : a - b \quad (a - b)b = \frac{x^2}{4}$$

$$\frac{a}{2} - \frac{c}{2} = h \quad a - c = 2h \quad bc = y^2$$

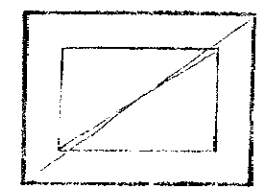
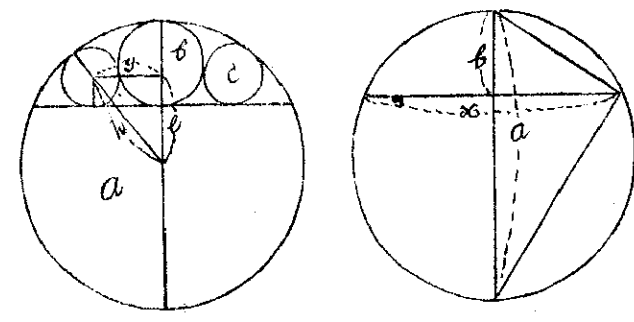
$$\frac{a}{2} - b + \frac{c}{2} = l \quad a + c - 2b = 2l$$

$$l^2 + y^2 = h^2$$

$$(a + c)^2 - (a + c) + b + bc + b^2 = (a - c)^2$$

$$-4ab + 4b^2 = -4ac \quad ab - b^2 = ac$$

$$(a - b)b = ac \quad \frac{x^2}{4} = ac \quad x = 2\sqrt{ac}$$



矩形の内は周圍の地等しき距離ありて又矩形  
を容るなり其周圍の積六十寸内外對角線の和  
二十寸あり外對角線幾何を以てや

答 外對角線十三寸

解と曰く外對角線をxと命し内對角線をyと其和を  
cと外長平和をaと内長平和をbと周圍積をd  
と等距離をrと以てdを除き折半してeと以て即ち  
外長と内平の和或ハ内長と外平の和あり又eを還原し  
てdの代象△とし又左圖に依て外長平和aを自乗し此  
内より外對角線x自乗を減まれバ外矩形の積二段を以  
る尤も内矩形の積も此の如く求め尤も相減し周圍

外長平和 =  $a$     内長平和 =  $a'$     對角線和 =  $c$     周圍積 =  $d$

外對角線 =  $x$     內對角線 =  $x'$     外矩形積倍 =  $t$     內矩形積倍 =  $t'$

等距離 =  $y$      $(x-x')=c$      $\frac{d}{2y}=l$      $d=2yl$

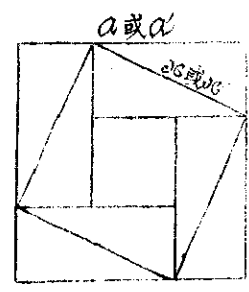
$l+2y=a$      $l-2y=a'$      $a^2-x^2=t$      $a'^2-x'^2=t'$

$(a^2-x^2)-(a'^2-x'^2)=2d$

$l^2+4ly+4y^2-x^2-l^2+4ly-4y^2+c^2-2cx+x^2=2d$

$8ly+c^2-2cx=2d$      $4d+c^2-2cx=2d$

$2d+c^2-2cx=0$      $x=\frac{2d+c^2}{2c}=\frac{d}{c}+\frac{c}{2}$



の積  $d$  二段を以て  
式を設け点竄  $\triangle$   
此象を變  $x$  を求  
る時ハ對角線和を  
以て周圍積を約  
對角線和折半を加  
へ外對角線と以

六  $a$  角正切若干  $b$  角正切若干を題  $a$   $b$  差度の正切を求む

答 左の如し

解  $\therefore$  曰く半径一を  $r$  とし正弦を  $s$  とし余弦を  $\cos$  とし正切を  $t$  とし正割を  $\sec$  とし  $a$   $b$  差度の正切を  $x$  と命  $a$  正切と  $b$  正切の差を  $h$  とし比例を設けて  $CD$  を求め以て比例して式を以て又ハ線變化の比例は依て正割  $\sec$  及び  $h$  を解き又  $\ast$  此象を變格し遍く  $a$  余弦  $\cos$  を以て約しハ線變化の比例は依て  $\ast\ast$  此二象を變し精式とし  $x$  を求る時ハ  $a$  正切  $b$  正切を乗し一個を加へ以て  $a$  正切と  $b$  正切の差を除き差度の正切を以て即ち此条ハ代微積譯解一之三第六款の題を詳解す

尚角の和較を以て解へ此条第七は依て考べし

半径 =  $r$  正弦 =  $f$  余弦 =  $\cos$  正切 =  $t$  正割 =  $\sec$

$$(a-b)=x \quad t a - b = h \quad r : a :: h : D \quad \text{即} \quad r : a :: h : D$$

$$D = f a h \quad r : \cos a :: h : c \quad c = \cos a h \quad \sec a - D = n$$

$$\sec a - f a h = n \quad r : x :: n : c \quad \therefore n x = c$$

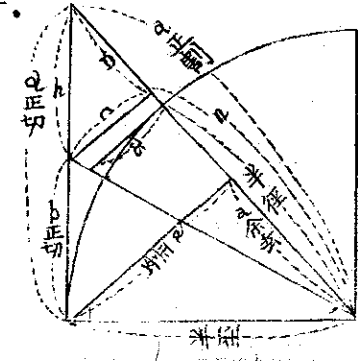
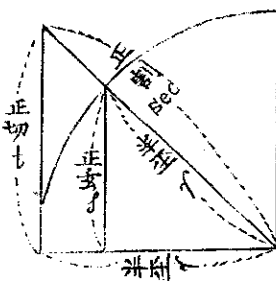
$$\sec a x - a h x = \cos a h r \quad r : f :: \sec : t \quad \sec = \frac{t}{f}$$

$$\frac{t}{f} a x - a h x = \cos a h \quad \frac{t a x}{f} - \frac{t a x}{f} + b a x = a h \quad \cos a$$

$$\frac{\cos a x}{f a} - \frac{b a x}{f a} = \cos a h \quad 1 - f^2 = \cos^2 \quad f : \cos :: t : r$$

$$\frac{\cos a x}{f a} - \frac{b a x}{f a} = h \quad \frac{f}{\cos} = t \quad \frac{\cos x t}{f} = 1$$

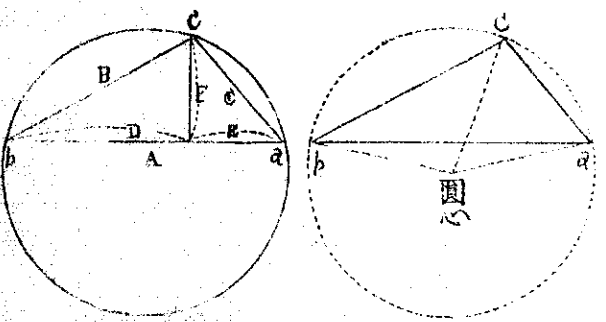
$$x + b a x = a - b \quad x = \frac{a - b}{1 + t a b}$$



七  
平面の地上に  $a$   $b$   $c$  の三所より同速の人力車を乗し同時に  
は發程し同時に  $a$   $b$   $c$  の三所の距離若干  $a$   $b$   $c$  の距離若干  $a$   
 $c$  の距離若干あり各所より集會所と至る里程幾何あるや

答 左の如し

解 曰く同時に發し同速を以て同刻と  
會まれば其路程を同等あると必せり  
之を考ふる  $a$   $b$   $c$  の三所の圓周は在て  
其圓心に集るあり故に圓内は斜三角を  
設け其三辺の各の距離ありて圓半径の  
同等の里程と以て  $\triangle ABC$  の三辺を以  
て之を求る  $a$   $b$   $c$  の三所の圓周は在て



筆算通書卷之四終

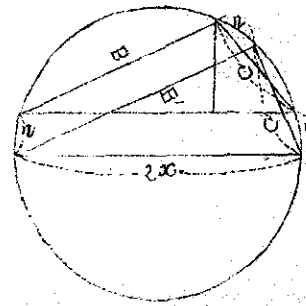
同里程=2C    a b 距=A    a c 距=C    b c 距=B

$$(D-E) = \frac{B^2 - C^2}{A} \quad D = \frac{A + (D-E)}{2} \quad F^2 = B^2 - D^2$$

$$F = \sqrt{B^2 - D^2} \quad F:B::C:2C \quad x = \frac{BC}{2F}$$

C 距相乗と約し同等の里程とす

D E を求め以て下圖に依て比例を設け  $2C$  を求む此例は古書にある今新考する処を示す能着目すべし即ち b c 距を自乗し内 a c 距自乗を減し a b 距を以て除き a b 距を加へ折半し之を自乗し以て a b 距自乗を減し平方と開き之を倍し以て b c 距 a



東京 大井徳成 校  
坂府 谷 貞胤  
全 木寺 榮吉 正

筆算通書

和算洋算ヲ論セス総テ宇宙普通教理ヲ講説シ文明ノ餘光ヲ同索ト共ニ尚ノ化新センヲ欲ス故ニ其譯述スル所ノ課書ノ彫刻ノ人學則ヲ設ケ塾ノ諸方ニ開キ人ノヲ求ムルヲ期望ス今其一二ヲ畧々奉ス

筆算通書

六冊

代微積拾級譯解

十冊

測量集成

自初編至五編

十五冊

測量新式

十冊

東京

小川町廣小路

順天求合社

教講朝

自九時半至十一時

午後三時

自六時半至七時

大坂

清水谷

庚午塾

同 午後

自二時至五時

夕

自七時半至十時

同

高麗橋二丁目

試天堂

同 午後

自二時至五時

夕

自六時半至十時

同

南本町四丁目

順天堂

同 同前

學課階級表初級中等高等四等ニ至ル題術ヲ概畧シ詳解ヲ記載ス  
コラーミニ区ノ原本「代微積拾級」ヲ  
譯シ詳註ヲ加ヘ代微積分積各ヲ和算ヲ  
初編ヨリ三編ニ至リ測量地ノ諸器用法ヲ説キ  
四編五編ハ洋式ヲ解示ス  
遠近高低水準ノ量法ヨリ工學諸道ノ測量ヲ詳ニ  
此書及ヒ集成ハ總テ第三等ノ測量術ヲ論ス

學 課 階 級 表

|    |                                           |
|----|-------------------------------------------|
| 十等 | 加減乘除、分數                                   |
| 九等 | 正轉合、轉合、聯絞、諸比例、杉俣法                         |
| 八等 | 自二乘至數乘求根法、同雜題                             |
| 七等 | 代數 <small>加減乘除、最大公約法、分數、變商</small> 諸乘方、括弧 |
| 六等 | 代數 <small>方程式</small>                     |
| 五等 | 代數 <small>平方、立方、諸乘方題</small> 測學諸題         |
| 四等 | 代數 <small>諸約簡、管不定數題</small>               |
| 三等 | 測三角術 <small>八線變化、止斜、平三角</small>           |
| 二等 | 微分 <small>招差、綴術、增損約、極數、重學</small>         |
| 一等 | 積分 <small>面積、體積、重學</small>                |
| 別課 | 陸地測量、航海測量、曆理、星學                           |

此課二三等、法術迄研究、後從學ヲ許す可也

花井靜著

明治四年辛未十二月

發兌書林

大坂東京

河內屋喜兵衛  
河內屋茂兵衛  
敦賀屋九兵衛  
須原屋佐兵衛  
山城屋新兵衛  
須原屋嘉七  
岡田屋吉兵衛  
和泉屋金右衛門  
和泉屋文藏  
英屋平七  
島屋